

魔法のプロジェクト FY23 活動報告書

報告者氏名：澤岬 圭祐

所属：大平特別支援学校

記録日：2024年 2月 27日

キーワード：知的障がい 就労 金銭 プログラミング

【対象児の情報】

・学年

高等部1年生の男子生徒

・障害名

知的障害、精神疾患

・障害と困難の内容

- ・高等部より本校に入学。中学校までは不登校の傾向があり、ほとんど学校に通えていない。
- ・知的な遅れはあまり感じることはないが、不登校による学習の遅れなどによる幼さを感じることもある。
- ・高等部入学を機に、自分を変えたいと考えているようで「いろんなことにチャレンジしてみたい」「高等部では頑張りたい」などの発言が見られる。
- ・卒業後は一般就労を希望している。特に接客を希望。
- ・これまで同級生と関わる経験が限られていたからか、友達に伝えたいことが伝えられず悩んだりするなど人の関わり方に困りを抱えているようである。

【活動目的】

・当初のねらい

- ・他者との関わり方を身につける
- ・生活に根ざした学力の向上

・実施期間

令和5年7月～

・実施者

澤岬 圭祐

・実施者と対象児の関係

教科担当

【活動内容と対象児の変化】

・対象児の事前の状況

・活動の具体的内容

①「プログラミングをしてみよう！～プログラミングを通した信頼関係作り～」

対象生徒の姉・兄も不登校傾向が強く、本人も中学校まで不登校であった。これまでの本人及び兄の傾向から「夏休みなどの長期休み後に不登校になる可能性が高くなる」「友人関係で問題が起きた時にストレスから登校しづらくなる」ことがあり、そのための対応が重要だと考えた。そのため、夏休みから実施者と週に1度登校日を設定し、学校とのつながりを途切れさせないようにしている。また、簡単なテキスト等を活用し、簡単な内容から実践することでハードルを下げている。

②「交流で普通校の生徒にプログラミングを教えよう！～目標作り～」

明確な目標と期日を設定し、その達成に向かって取り組みを進めた。2学期からは放課後取り組んでいる。その中で、テキストを見ながら Micro:bit で簡単なゲームを作成したり、歓迎の挨拶を Pepper にプログラムをするなどして交流に向けて準備を行なった。



図1. 交流での様子 (Pepper のプログラムを教える場面)

当日は、女子生徒1名とともに Pepper で交流の様子を振り返るプログラムを組むことができた。女子生徒で緊張している様子ではあったが、徐々にリードしながらプログラムを組むことができた。



「楽しかった」という思い出は残ったが……。もっと能動的に取り組めないか……？

③「お金を稼いでみよう！～社会参加の練習～」

プログラミングの取り組み(①②)に対して生徒は意欲的に取り組むことができた。しかしながら、生徒の実態や進路希望を考えた際により社会参加に向けた取り組みが必要であると考えた。そこで、対象の生徒に名刺販売を通してお金を稼ぐ体験やそれらの体験の中で社会参加に必要な力を身につけていこうと考えた。



図2. 名刺販売の様子 (サンプルを選び、作成、確認、納品の流れ)

名刺作成アプリを活用し、注文を受けた職員にデザインを選んでもらい作成。少しずつメール等も組み合わせ

せていく予定。

・対象児の事後の変化

① を通しての変化

最初はテキストを見ながら取り組み、わからないところを質問するだけの状態であったが、少しずつ今日の出来事や家庭の困りごと、将来のことなどを職員に相談するようになっていく。

② を通しての変化

ある程度の目標を立てて取り組むことで、一日のノルマを自分で決めて取り組むことができている。また、当日は緊張して歓迎のセレモニーで Pepper を操作する際には緊張から逃げ出しそうになっていたが、相手高の生徒から「すごい」と称賛されたことで自信になっているようである。

③ を通しての変化

canva を活用しポスターデザインを作るなど能動的に取り組む様子が見られている。また、「〇〇先生が注文したいそうです」など嬉しそうに取り組んでいる様子が見られるようになっていく。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

・ 困り事や不安に思うことを身近な職員に相談することができることで安心して学習に参加できることで出席率が大幅に向上し、いろんなことに積極的に参加できるようになっている。また、その中で成功体験を積み重ねたことがより好循環を生んでいるように感じる。

・エビデンス(具体的数値など)

中学校までは不登校傾向が高かったが、今年度は出席率が大幅に向上している(欠席は0)。担任からは「表情もよくなり、毎日楽しそうにしている」というコメントも聞かれている。また、名刺販売でポスターを作成する際にはいろいろなアプリを自発的に試し、ポスターを作成している。実際に販売数が増えてくると、とても嬉しそうに顧客(職員)とやりとりをする姿も見られている。2月末までの約2ヶ月で5名の職員から注文を受けている。また、北海道からの注文(職員の知人から)についても「やりたいです!」と即答するなど積極的な姿勢も見られるようになっていく。



図3. 作成したポスター

・その他エピソード(画像などを含めて)

いろんなことに積極的に取り組むことができるようになっていくが、その中で経験の無さや不安から職員に確認することが多かったが、経験を重ねることで少しずつ自分だけで進めることができるようになっていく。また、その際に授業等で活用していないスマホのアプリを自分で使いながら取り組むなど彼の良さが見られるようになっていく。今後も取り組みを進めて、校外に出かけるなど生活経験も積み重ねていけるようにしたいと考えている。